

発表後の生徒へのフィードバックの方向性     あくまで参考です

- ・①なんで？→調べる→答え分かる&新たな疑問が浮かぶ→調べる     あるいは
  - ②なんで？→調べる→答えはいまいち出てこなかったけど新たな疑問が浮かんだ→調べる
- これを繰り返すことで問いが深まる
- 問いの設定がよくなかったり、調べ方がよくないと答えがうまく出てこないこともある
- 調べることの目的は答えを出すことだけではない   調べることで新たな疑問が浮かぶこともある

問いがあまり深まらなかった人へ①

- ・方向性を定めてこのプロセスを繰り返すべき

このプロセスを繰り返すときに、向かっていく方向性が不確定すぎると思ったように問いが深まらない場合がある   浅い所でぐるぐるしている状態かも

何も考えずにひたすら繰り返すのではなく、例えばその分野に関する解決すべき課題や望まれる発展などを調べ、それらに関連付けながら深めていくことで、適切な方向へ問いが深まっていく

そうすることで、未知であり、かつ、解決することで世の中に貢献できる問いにたどり着けるのでは

問いがあまり深まらなかった人へ②

- ・調べようとしていることが抽象的すぎないか

→できるだけ問いを具体的にする。抽象的だと調べても答えが出づらいし、研究もしづらい

- ・「アジア人」など、大きなくくりでの表現になっていないか。

→もう少し問いの対象を絞り、答えを出しやすくする。地域や国とかを絞ってみる。

・「どのように影響するか」といった問いは、影響することを前提として問いを立てているので、その時点でバイアスがかかっているということはないだろうか。そもそもそこに因果関係はないかもしれない。

あまり問いが浮かばなかった人へ

- ・答えを出せる能力も大事だが、いろんなことに疑問を持てる能力もめちゃくちゃ大事

課題研究では他の授業と違って、問いが用意されていない   自らの手で問いを見つける必要がある

→日頃から周りの物事に対して「なんでだろう？」と疑問を抱き、調べる癖をつけよう

疑問を抱ける人間になる   思考が深くなる   「なんでだろう？」は東大生の口癖ランキング 1 位みたいです